

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

鉄道軽視・外注化の撤回を

6/16 内房線(上総湊~竹岡駅間)で感電死亡事故



事故は変圧器の部品交換中に起こった

6月16日、内房線・上総湊～竹岡駅間において作業員の感電死亡事故が発生しました。犠牲になったのは28歳の作業員です。信号高圧配電線の引下線取替作業中に、電線が胸に当たって感電したとされています。

業務外注化が根本にある

事故報告（速報）によれば、き電、信号高圧ともに停電はシステムによる自動制御ですが、き電は停電となった一方で信号高圧は加圧状態のまま作業が行われていたとされています。原因の詳細は「調査中」とされて明らかにされていません。

なぜ信号高圧のしゃ断が行われなかったのか？ なぜ加圧状態だと現場に伝わらなかったのか？ 検電や短絡接地器具の取り付け等の状況はどうだったのか？
明らかにすべきことはいくつもあります。
しかし、今回の事故の根本に

はJRによる鉄道業務の軽視、業務丸ごと外注化とそれによる無責任体制があります。

JRは丸投げ外注化すれば、形式の上では「何一つ責任がない」ことになります。しかし、外注会社では鉄道全体にトータルに責任を取ることができません。それ自身が鉄道業務の軽視です。

今回犠牲になったのは外注先のさらに下請け会社の仲間でした。一方、事故報告では最も責任があるはずのJR東日本は名前さえ出てきません。一人の労働者の命が奪われているのにJR自身の責任は隠されています。

鉄道軽視の施策撤回を

会社は外注化、統括センター化、業務融合・兼務化などを進めています。「鉄道を持つIT企業化」「鉄道部門4千人削減」を掲げ、「鉄道ありきで考えるな」「これからは価値創造だ」とおっています。

鉄道業務と現場労働者をないがしろにすれば、鉄道の安全は崩壊していきます。

外注化で労働者を下請けや非正規に突き落とし、乗務員を融合化・兼務化で「何でも屋」のように扱い、ジョブローテーション等で追い詰めていくやり方は絶対に許せません。

職場に必要なのは闘う労働組合です。外注化撤回、融合化・兼務化撤回の声をあげよう。